

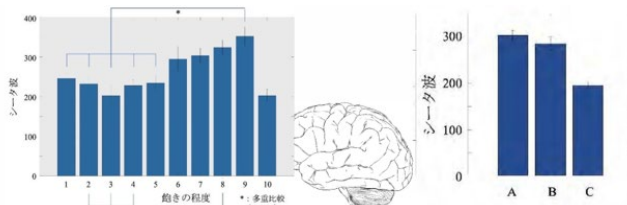
～脳科学(脳波データ)を用いて「飽きない」食品を創る～
食体験の「飽きプロフィール(分析)」可視化モデル構築
 ～「おいしい」ではなく、長続きする食品開発の評価指標に～

国立大学法人筑波大学（所在地：茨城県つくば市、学長：永田恭介、以下「筑波大学」）システム情報系知能機能工学域・准教授 川崎真弘研究室では、20 年以上に亘り脳波計測・解析の研究に取り組み、人と人とのコミュニケーション、人の心理状態のメカニズムを、脳から、特に「脳波のリズム」から解き明かす研究を行ってきました。その研究成果を活かし、「おいしい」評価だけでは「売れるかどうか（市場性）」を予測できない食品開発において、食体験の「飽き」をプロフィール(分析)し、評価指標として可視化できるモデルを構築しましたので、お知らせいたします。

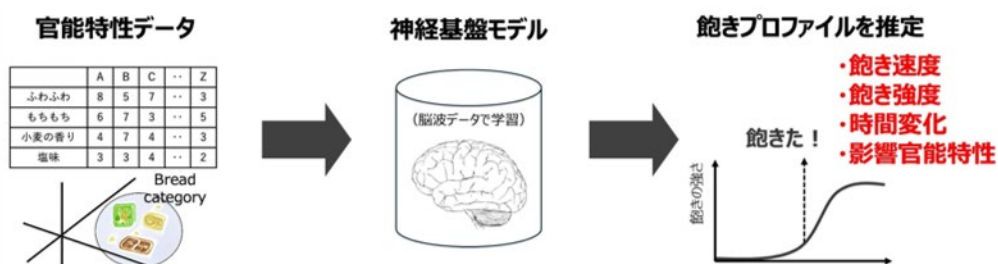
【研究内容】

- ・食品の「好み」と「飽き」は一致しないことを発見
- ・「飽き」状態を脳波指標で検出

<飽き状態を表現する脳波と試食銘柄による違い>



- ・食品摂取時の ①官能特性データ、②飽きの時間評価、③生体反応データ、を統合したモデル構築 (特許出願済み)



- ・マーケティング評価への拡張可能性を検討⇒食体験の時間構造を神経基盤(脳波データ)による「飽きプロフィール(飽きを分析)」として可視化

【今後の展開】

本技術は実証・検証段階の研究シーズであり、今後、企業との POC・共同研究などを通じて食品関連、特に商品開発・マーケティング・官能評価部門等において評価指標として検討いただける様に、有効性を検証してまいります。

【本件お問い合わせ先】

筑波大学広報局報道担当

E-mail : kohositu@un.tsukuba.ac.jp